一般財団法人秋田県総合公社　令和７年度事業報告

Ⅰ　経営概況

令和７年度は、第３期経営計画（R6～R10）の２年度目として、計画の４つの将来像である「挑戦」「人財」「社会貢献」「協働」の実現に向け、運営本部及び各事務所において、事業計画に掲げた各種事業の着実な実施に努めてまいりました。

当公社が管理運営を担う県有 10 施設において指定管理者の更新期を迎え、県の選定委員会を経て、全ての施設について次期指定管理者に選定されました。これにより、令和８年度以降も引き続き、管理運営業務を継続できることとなりました。

管理施設の利用状況に目を向けますと、本県の喫緊の課題である人口減少、とりわけ少子化の進行がスポーツ競技人口等の減少に直結しており、大会規模の縮小など、厳しい状況が続いております。加えて、令和７年度はツキノワグマが施設周辺に出没したため、利用者の安全確保を考慮し、施設の一部利用中止や利用制限を余儀なくされ、利用者数にも少なからず影響を及ぼしました。

このような中でも、公社では利用促進に向けた様々な施策を展開してまいりました。県立中央公園では、ファミリーピクニックゾーンに７月にドッグランを試験的に設置し、新たな利用者層の獲得に繋げました。また、4 月利用分から県立体育館で施設予約システムを、7 月には県立中央公園のキャンプ場予約システム「なっぷ」を導入し、予約業務の利便性向上および利用者サービスの充実を図りました。

県立中央公園 ドッグラン

広報戦略として、広報誌の発行に加え、Instagram 等のＳＮＳを活用し、タイムリーな情報発信を継続したほか、報道機関への積極的なアプローチを通じて旬な話題提供に努めました。その結果、公社管理のスポーツ・文化・公園施設合計で年間約 160 万人にご利用いただくことができました。また、利用者の声を収集する目的で利用者アンケートを実施し、年間で 988 件を回収し、満足度 92.6%という高い評価をいただくことができました。寄せられた貴重なご意見に対しては、施設内への回答掲示を通じて真摯なフィードバックを行い、利用者との信頼関係構築に努めております。

施設管理においては、エネルギー価格の高騰や生産年齢人口の減少に伴う人手不足が常態化するなか、デジタル化による業務の効率化と利用者サービスの向上を両立させるため、11 月に「ＤＸ推進計画」を策定しました。

Ⅱ　令和７年度事業計画の達成状況

1. 挑戦

(1) 5 か所 10 施設の県有施設の指定管理更新と募集条件の変更への適切な対応

公社が管理する県有 10 施設の指定管理が更新期を迎えるに当たり、6 月に役員、運営本部、各事務所で構成するプロジェクトチームを立ち上げ、全体会議、施設単位での個別会議を積み重ねながら、チーム一丸となって選定に向け取り組んでまいりました。

今回の募集では、県外に本社を置く事業者の申請が可能になったほか、県環境保全センターおよび県立中央公園の指定管理期間が 10 年に延長され、県立体育館などのスポーツ施設においては「利用料金併用制」が導入されました。

公社としては、これまでの管理運営実績を強力にアピールするとともに、新規自主事業の計画や利用促進策を提案し、募集条件の変更に対しても適切な対応策を提示しました。その結果、選考委員会の審査を経て、令和 8 年度からの指定管理者に選定されました。

(2) 利用者拡大の取組と安全・安心な管理運営

1）利用拡大への取組事例

県立スケート場のオフシーズン（4 月～9 月）利用促進のため、事業者向けに催事利用案内チラシを作成しました。秋田商工会議所の有料サービスを活用し、会報に同封する形で会員約 5,400 社へ配布した結果、令和 8 年 5 月の大手食品メーカーの催事会場としての利用ほか 1 件が決定しました。

県立中央公園では、新たな利用者層の拡大を目的にファミリーピクニックゾーンに 900 ㎡のドッグランを設置しました。設置に当たっては、社員自らが廃棄予定のテニスネットを再利用して設営を行うなど、コストを抑えつつ創意工夫を凝らした取り組みとなりました。

2）新たな自主事業の企画

県立野球場（こまちスタジアム）は、原則公式試合のみの利用に限定しておりますが、一般の方々にも利用していただく機会を提供するため、新たな試みとして「こまちスタジアムバッティングセンター」を 10 月に開催しました。球場全体を巨大なバッティングセンターに見立てた企画は、利用者から好評を得ました。

こまちスタジアムバッティングセンター

また、令和 6 年度から引き続き開催した展示販売イベント「中央公園ハルノ市」では、全国各地から 109 の出展があり、これまで来園機会の少なかった方々を含め約 8,000 人にご来場いただきました。

3）業務の効率化等を目的とするＤＸの推進

令和６年度から、ＩＴベンダーの伴走支援を受けながら、業務の効率化や利用者サービスの向上を目的にＤＸの推進に取り組んでおります。令和 7 年度も引き続きベンダーの伴走支援を受け、各事務所の業務上の課題やＤＸ化要望業務を踏まえ、推進部署や方針をまとめた「ＤＸ推進計画」を策定しました。

具体的な施策としては、巡回点検業務の効率化を図るタブレット入力アプリの導入や、バーコード付き利用者カードによる受付事務の簡素化について検討を重ね、令和８年度より本格稼働することとなりました。これにより、事務負担の軽減とデータ活用による迅速な施設管理が可能となります。今後も同計画に基づき、各施設へのシステム導入等を順次進めてまいります。

巡回点検業務のデジタル化

また、県立体育館に４月利用分から施設予約システムを、７月には県立中央公園のキャンプ場予約システムを導入し、利用者サービスの向上を図りました。

4）クマ出没に関する安全対策

令和 7 年度は市街地においてクマの出没が相次ぎ、多くの人身被害が発生するなど深刻な状況となりました。公社の管理施設周辺においても、クマの目撃情報が多く寄せられたことから、施設出入口の自動ドアを手動に切り替える措置や、施設にクマの目撃情報に関する注意喚起を掲示するなど、迅速な対応に努めました。

また、県立中央公園や県立武道館などでは、専門の講習を受けた社員が轟音玉（ごうおんだま）等を用いて威嚇を行い、施設内へのクマ接近を防止したほか、社員による巡回を強化するなど、利用者の安全確保を最優先とした対策に努めました。

5）電気や燃料の使用量及びコストの見える化

施設管理部では、電気・燃料の月別使用量をグラフ化することで、使用状況の的確な把握に努めました。これにより、エネルギーや燃料の日常的な無駄を省く意識を全社員で共有し、省エネに努めました。

また、電気の使用実績に基づき、現行契約の適正性を調査しました。その中で、新電力の導入も検討しながら、並行して東北電力株式会社と協議を重ね、４施設において、より安価な契約を締結するに至りました。

(3) 設置者や利用者・利用団体との意見交換機会の確保

施設の設置者である県との運営協議会を通じて、県側のニーズ把握や施設・設備の老朽化対策、利用促進に関する課題について継続的な協議を行いました。また、指定管理者の公募時期に合わせ、施設の安全維持と持続可能な運営を確保するため、現状の管理コストに基づいた適正な指定管理経費の積算を要請しました。

さらに、利用者や利用団体との懇談会による意見交換に加え、ウェブアンケートの試験導入や、環境保全センターで搬入者対象の独自調査を行うなど、多角的な手法でニーズの把握に努めました。これらの活動を通じて、より利便性が高く、安全な施設運営の実現に取り組んでおります。

2. 人財

(1) 社員の処遇改善・働きやすい職場づくり

全社員の基本給の引き上げや、期末手当の支給対象者の拡大などの処遇改善を実施し、社員の業務モチベーションと満足度の向上に取り組みました。

また、社員の仕事と子育ての両立を推進し、全社員がいきいきと活躍できる環境づくりを進めるため、公社では次世代育成支援対策推進法および女性活躍推進法に基づく「一般事業主行動計画（R8～R10)」を策定しました。本計画において、男性社員の育児休業取得率や、課長補佐以上の女性人数などの目標値を設定し、働きやすい環境づくりを推進しております。

(2) 安全・安心な就労環境等の整備

社会経済情勢の変化に応じた人材確保と社員のＱＯＬ（クオリティ・オブ・ライフ）向上を目指し、給与水準の引上げを含む給与制度の見直しや、年次有給休暇の積極的な取得促進、個々の事情に配慮した勤務体制の調整を実施しました。あわせて、育児・介護休業法の改正に伴う社内規定の整備を行い、令和 7 年 4 月 1 日からの子の看護等休暇の対象拡大や、同年 10 月 1 日施行の「柔軟な働き方を実現するための措置」や「個別の意向聴取・配慮」についても社内に周知を図りました。

また、ＳＤＧｓや一般事業主行動計画に定めている、女性総合職社員の役付き職への一定数の登用等を目指すため、秋田市が実施しているキャリアデザインセミナーに 2 名の社員を派遣しました。

さらに、社員が安全・安心に業務に従事できるよう、「カスタマーハラスメント（カスハラ）対応方針」の策定や対応マニュアルの検討、全社員を対象としたカスハラ対応研修を開催しました。これらを通じて、社員がその能力を最大限に発揮し、心身ともに健やかに働き続けられる職場環境の充実を図っております。

カスハラ対応研修

(3) 第 2 期研修計画の開始と新たな研修による人材育成

第 1 期研修計画（R4～R6）の成果と課題を検証し、新たに策定した「第 2 期研修計画（R7～R9)」の初年度として、階層別に必要な能力を補完する育成研修や、社員の自発的な学びを促す選択研修を設定しました。

令和 7 年度は、「フィードバック面談・コーチング研修（全 2 回：7 月 2 日、12 月 2 日実施。15 名受講)」や「クレーム対応・カスタマーハラスメント対応研修（全 2 回：11 月 7 日、1 月 20 日実施。24 名受講)」を新設したほか、自律的に思考できる中堅社員層を育成することを目的とした「自律的思考獲得研修（全 3 回：7 月 4 日、10 月 3 日、11 月 21 日実施。12 名受講)」を継続して実施し、人材の育成に努めました。

また、施設管理能力の向上を図るため、県内外の施設などへの先進地視察研修を行いました。向浜スポーツゾーンの担当者 7 名は、プロ野球一軍戦の開催実績を有し、積雪寒冷地における優れた管理ノウハウを持つ弘前市運動公園野球場（はるか夢球場）を視察し、ハード・ソフト両面における施設運用の知見を深めることができました。

3. 社会貢献

(1) 事業活動を通じての社会貢献への取組

公社は、これまでも公共施設の管理運営事業を通じて、社会貢献に寄与してまいりました。令和 7 年度も、健康増進を目的とした教室の開催や、地域のにぎわいを創出するイベントへの参画など、自主事業を通じた社会貢献活動に取り組みました。

健康応援教室

ノルディックウォーキング

ミルハス フリー オープン･ディ

キッズスイミング

(2) 障がいのある方への音楽等鑑賞機会の提供

令和６年度に引き続き、あきた芸術劇場ミルハスでは文化庁の助成事業を活用し、「あきた吹奏楽の日」および演劇２つの３公演において、視覚や聴覚に障がいのある方が快適に音楽・舞台鑑賞を楽しめるよう「公演鑑賞支援サービス」を実施しました。

令和７年度は、新たに市民ボランティアを募集し、当日の歩行介助や手話対応などに協力いただきました。

公演鑑賞支援サービス

公 演 名	概　要
あきた吹奏楽の日 ～大いなる秋田～	12 月 21 日（日）利用者５人、ボランティア４人 ５人中、４人は第３部で合唱に参加し、１人は手話で歌を表現。 ＦＭ電波を活用した補聴システムの貸し出し、視覚障がいのある方の歩行介助等。
Ｋバレエ・オプト 「踊る。遠野物語」	１月 12 日（月・祝）利用者１人、ボランティア１人 聴覚障がい者向けの字幕表示システムを導入。
舞台「飛び立つ前に」	１月 24 日（土）利用者３人、ボランティア３人 １月 25 日（日）利用者５人、ボランティア３人

(3) 協議会や業界イベントへの参加を通じた社会貢献への取組

1）雄和椿川地区熊対策協議会の取組

県立中央公園では、周辺機関とともに「雄和椿川地区熊対策協議会」を組織し、林地における下草の刈払い作業のほか実効性のある対策を共同で実施するなど、利用者の安全の確保に努めました。また、啓発活動の一環として、令和８年１月に開催された「中央公園冬まつり」においてパネル展示を行いました。

2）あきたエコフェスへの出展

環境保全センターでは、循環型社会の形成などの啓発を目的とした「あきたエコフェス（10 月 11、12 日開催）」に出展しました。展示では、産業廃棄物処理の重要性や、センター内で維持管理しているビオトープの状況、公社の環境保全活動を広く紹介し、環境意識の向上と社会貢献に努めました。イベント全体では２日間で約２万４千人が来場しました。

(3) ＳＤＧｓ目標達成状況

ＳＤＧｓ目標については、令和３年度より「秋田県ＳＤＧｓパートナー」の登録３項目を含む計９項目を掲げ、毎年10月に達成状況の更新を行っております。現時点で未達成の項目については、2030 年までに達成することを目指し、引き続き努力してまいります。

総合公社ＳＤＧｓ項目達成状況一覧（一部抜粋）

No	ＳＤＧｓ項目	指　　標	数値目標	2025年達成状況
1	健康を提供するため施設利用を促進します。【県登録】	健康増進自主事業として健康応援教室等の実施回数を増やす。	30回	41回（達成中）
2	有害物質の適切な処理・管理に努めます。【県登録】	環境保全事務所ビオトープの生態系維持に適切な水質を確保する。	COD 20mg/L以下 BOD 10mg/L以下	COD 1.66mg/L BOD 0.94mg/L（達成中）
3	女性が活躍できる職場づくりに努めます。【県登録】	係長以上の女性社員数を増加する。	8名	6名（未達成）
4	県や市町村とのパートナーシップの強化に努めます。	指定管理業務の受託施設を増加させる。	10施設	10施設（達成中）
5	施設の平等利用・公正利用の確保に努めます。	総合職社員全員にコンプライアンス研修を受講させる。	100%	100%（達成中）
6	ＩＣＴを活用して、施設の長寿命化に努めます。	ドローンによる施設点検回数を増加する。	10回	1回（未達成）
7	地域等と連携したクリーンアップに努めます。	他企業、他団体及び地域と連携した合同クリーンアップの機会を増加する。	7回	2回（未達成）
8	資格取得支援制度を活用して、働き甲斐のある運営に努めます。	公的資格支援制度の手当支給対象者数を増加する。	43名	46名（達成中）
9	社員の処遇改善とモチベーションの向上に努めます。	内部登用試験合格社員数及び限定社員（無期転換）社員数を増加する。	40名	45名（達成中）

(4) 地域活動への参加と協力

向浜スポーツゾーンでは、周辺の県機関と合同でクリーンアップの実施したほか、あきた芸術劇場ミルハスでは「広小路バザール」等の中心市街地活性化事業に合わせ、集客イベントを開催しました。これらの活動を通じ、地域の環境美化や活性化に協力しました。

4. 協働

(1) 利用団体と一体となった広報や普及活動による利用促進

1)秋田県武道協議会、公立武道館協議会との協働

施設を利用する武道(術)競技 9 団体で構成される「秋田県武道協議会」と協働し、4 月に武道功労者および武道成績優秀者の表彰を行ったほか、8 月には武道体験会を開催しました。

また、県内の公立武道館で組織する「公立武道館協議会」と協働して、武道指導者研修会等を開催し、指導者の資質向上等に努めました。さらに、両協議会との共催による「第 18 回秋田県武道まつり」を令和 8 年 1 月に開催しました。これらの事業を通じ、初心者や若年層を中心とした新規層の掘り起こし、および県民が武道(術)競技に触れる機会を創出するとともに、競技者間の交流促進を図ることができました。

第 18 回秋田県武道まつり

2)トップスポーツチームとの協働

秋田県のトップスポーツチームである「秋田ノーザンハピネッツ」と「秋田ノーザンブレッツ RFC」と協働し、小学生がスポーツを楽しみ、トップスポーツチームへの関心を高める場として、「夏休み！キッズチャレンジスポーツ 2025」を 7 月に県立体育館で開催しました。当日は、参加者の安全を第一に考え、万全の熱中症対策を講じた運営体制のもと、多くの子どもたちがトップレベルの指導に触れながら、スポーツの魅力を体感しました。

夏休み！キッズチャレンジスポーツ

(2) 従来の利用団体以外との協働

1)エリアを共有する団体との協働

あきた芸術劇場ミルハスでは、近隣の秋田市立図書館「明徳館」、秋田市文化創造館、秋田市にぎわい交流館ＡＵと協働し、「ミルハス フリー・オープン・ディ」を実施しました。また、県内鉄道愛好家で構成される「秋田鉄道趣味会」との協働により、令和８年２月に「鉄道模型見学会」を開催しました。これらの周辺施設や愛好家団体などとの連携を通じ、中心市街地のにぎわい創出に取組んだ結果、令和７年度は開館以来初めて来館者が 60 万人を超えました。

2)県立図書館との協働

令和２年度より実施している県立図書館からの借受図書による「図書コーナー（県立総合プール内)」は、自主事業で来館する児童や保護者に広く活用されています。

また、県立中央公園では、県立図書館においてパネル展「～こころとからだをリフレッシュ～秋田県立中央公園へ行ってみよう！（7 月 31 日～8 月 26 日)」を開催しました。夏休み期間に合わせ、図書館利用者に対して施設紹介や利用方法、および隣接する県有施設について紹介する展示を実施しました。これらを通じて、知名度向上と新たな利用層の確保を図るとともに、県民の健康維持や運動習慣の醸成を促す機会となりました。

県立図書館パネル展

3)クラフトイベント団体との協働

県立中央公園では、多様な利用者層の来園機会を創出することを目的に、イベント開催で豊富な実績を持つ「学校橋雑貨店」と協働し、令和８年３月に「中央公園ハルノ市」を開催しました。当日は、県内外から 109 の作家・ショップおよび 11 台のキッチンカーが出店し、約 8,000 人の来園者で賑わいをみせるなど、新規利用者の獲得に繋げることができました。

中央公園ハルノ市

4)秋田県レクリエーション協会との協働

秋田県レクリエーション協会との連携により、向浜スポーツゾーンでの「向浜こどもスタンプラリー」をはじめ、県立中央公園での「夏休み思い出つくり隊」や「中央公園冬まつり」、あきた芸術劇場ミルハスでの「こどもプレイルーム」等の各事業において、ニュースポーツの体験会等を実施しました。

5)秋田ケーブルテレビとの協働

秋田ケーブルテレビの番組「し～なチャン」に社員が複数回出演し、スポーツ・文化事業に関するタイムリーな情報発信を行いました。また、「向浜こどもスタンプラリー」においては、同社のキャラクター「秋田犬たれみみだいちゃん」が各会場に登場して、イベントを盛り上げました。

6)秋田観光コンベンション協会との協働

令和6年度に（公財）秋田観光コンベンション協会の賛助会員に加入し、公社管理施設のコンベンション利用を働きかけております。7月に本県で開催した「第46回全国廃棄物処理公社等連絡協議会主管者会議」に当たっては、同協会よりエクスカーションの情報や観光資料の提供等で協力をいただきました。

Ⅲ　定時評議員会及び理事会の開催

第1回理事会	令和7年5月29日
定時評議員会及び第2回理事会	令和7年6月17日
第3回理事会	令和8年3月24日

Ⅳ　事業の実施実績

1. 施設管理運営事業

秋田県等から公の施設の管理運営指定や業務委託を受け、効率的かつ効果的な施設運営と利用者サービスの向上に努めました。

(1) 指定管理者制度による施設の管理運営事業

区分	施設名称
環境保全施設	県環境保全センター
スポーツ施設	県立体育館、県立武道館、県立総合射撃場、 県立総合プール、県立野球場、県立向浜運動広場、県立スケート場
文化施設	あきた芸術劇場ミルハス
公園施設	県立中央公園

(2) 施設設備管理業務等に関する業務受託事業

区分	施設名称
医療施設	県立循環器・脳脊髄センター、県総合保健センター
環境保全施設	旧能代産業廃棄物処理センター

(3) 指定管理施設の利用実績

各施設の利用目標に対する実績は次のとおりです。

施設区分		令和７年度 目標(イ)	令和７年度 実績(ロ)	目標達成率 (ロ)／(イ)	
環境保全	県環境保全センター	35,000	58,523	167.2%	
文化	あきた芸術劇場ミルハス	350,000	366,941	104.8%	
スポーツ	県立体育館	48,500	65,074	134.2%	A
	県立武道館	186,000	167,591	90.1%	B
	県立総合射撃場（ライフル射撃場）	1,700	2,000	117.6%	C
	県立総合射撃場（狩猟技術訓練施設）	1,150	1,143	99.4%	
	県立総合プール	118,000	111,301	94.3%	
	県立野球場	70,450	85,724	121.7%	D
	県立向浜運動広場	16,450	17,949	109.1%	
	県立スケート場	66,440	73,350	110.4%	E
公園	県立中央公園	504,000	711,924	141.3%	F
合計（スポーツ・公園施設）		1,012,690	1,236,056	122.1%	
合計（文化・スポーツ・公園施設）		1,362,690	1,602,997	117.6%	

※単位について

県環境保全センターは産業廃棄物の処分量（トン）、その他施設は利用者数（人）

【目標達成率、比較増減についての特記事項】

A 県立体育館：高橋優氏 15 周年コンサートの開催やWリーグの試合数が増加したため。

B 県立武道館：東北規模の大会数の減少や大会規模の縮小、子育て応援団すこやかあきた等のイベント来場者数の減少のため。

C 県立総合射撃場（ライフル射撃場）：県外ライフル競技チームの練習や、ビームライフル射撃体験者が増加したため。

D 県立野球場：夏の甲子園県予選や、金足農業高等学校の招待試合（対大阪桐蔭高等学校）の開催による観客が増加したほか、プロ野球「楽天対ソフトバンク」戦で 11,000 人が来場したため。

E 県立スケート場：夏季期間やスタッドレスタイヤ試乗会の催事利用が好調であったことや、冬季五輪での日本人選手活躍により冬季の来場者が増加したため。

F 県立中央公園：ドッグランの新設や陸上競技場及び補助陸上競技場の利用者や、アリーナで実施した自主事業「中央公園ハルノ市」の来場者が増加したため。

2. 文化・スポーツ普及振興事業（公益目的支出計画に基づく事業として実施）

(1) 文化普及事業

県立武道館を会場に、文化普及を目的として文化や生涯学習に親しむことで、日常生活が豊かになるよう各種教室を開催しました。

実 施 施 設	内　　容	開催時期（期間）及び参加者数（延べ人数）
県立武道館	【伝統文化継承事業】	
	・和太鼓教室(基本講座)　5 回	6 月～ 7 月　43 人
	・和太鼓教室(応用講座)　5 回	9 月～10 月　29 人
	・書道教室　6 回	11 月～12 月　23 人

(2) スポーツ普及振興事業（公益目的支出計画に基づく事業として実施）

県民のスポーツ活動ニーズに的確に対応し、施設の利用促進と生涯スポーツなどの普及・振興を図るため、各種事業を実施しました。公社主催で、県内トップスポーツチームに協力いただき、県立体育館を会場に「夏休み！キッズチャレンジスポーツ 2025」を開催しました。

実 施 施 設	内　　容	開催時期（期間）及び参加者数（延べ人数）
県立体育館	【スポーツ交流事業】	
(企画事業部)	・夏休み！キッズチャレンジスポーツ 2025	7 月 27 日　51 人
県立総合プール	【イベント事業】	
	・県立総合プール施設探検ツアー	R8 年 1 月 24 日 15 人
県立スケート場	【イベント等】	
	・クリスマスフェスティバル	12 月 21 日　919 人
	・バレンタインイベント	R8 年 2 月 14 日 476 人
県立中央公園	【イベント・レクリエーション事業】	
	・ふれあい親子クラブ 2026 中央公園冬まつり	R8 年 1 月 18 日 約 2,500 人

クリスマスフェスティバル

県立総合プール施設探検ツアー

3. スポーツ振興事業（公益目的支出計画に基づく事業として実施）

県立武道館を拠点として、武道教室やイベントの開催を通じて武道の普及振興を図るスポーツ振興事業を実施しました。また、各武道団体が日ごろの修練成果を発表する機会を提供しました。

実 施 施 設	内　　容	開催時期（期間）及び参加者数（延べ人数）
県立武道館	【スポーツ教室事業】	
	・通年剣道教室　40 回	通年　1,134 人
	・初心者柔道教室　6 回	5 月　中止
	・初心者合気道教室　5 回	10 月　85 人
	・初心者銃剣道教室　5 回	7 月～ 8 月　中止
	・太極拳教室(前期)　5 回	6 月～ 7 月　58 人
	・太極拳教室(後期)　5 回	9 月～10 月　56 人
	・親子スポーツチャンバラ教室(前期)　6 回	7 月～ 8 月　中止
	・親子スポーツチャンバラ教室(後期)　6 回	12 月～R8 年 1 月　41 人
	・少林寺拳法で護身術体験教室　5 回	8 月～ 9 月　中止
	【イベント事業】	
	・県立武道館探検ツアー	9 月 28 日　33 人
	・第 18 回武道まつり	R8 年 1 月 12 日　820 人

通年剣道教室

初心者合気道教室

4. 芸術文化発信事業

あきた芸術劇場ミルハスでは、県民が多様な芸術文化に触れる機会を創出し、秋田の豊かな文化を発信する主催事業を実施しました。

実施施設	内容	開催時期（期間）及び参加者数（延べ人数）
あきた芸術劇場ミルハス	【芸術性の高い公演や文化芸術を国内外に発信する事業】	
	・劇団四季こころの劇場「ふたりのロッテ」	7月 7日 1,078人
	・わらび座ミュージカル「秋田は何もない」	9月15日 750人
	・あきた吹奏楽の日～大いなる秋田定期公演～	12月21日 1,800人
	・Kバレエ・オプト「踊る。遠野物語」	R8年1月12日 1,000人
	・東京芸術劇場制作舞台「飛び立つ前に」	R8年1月24日 563人 25日 521人
	・山形交響楽団特別公演 弦楽八重奏「親子で楽しむクラシック」	R8年2月15日 492人
	・あきた民謡フェスvol.3	R8年3月15日 607人
	【県民市民が元気になる文化活動】	
	・吹奏楽・指揮者クリニック	6月21、22日 70人
	・第4回ミルハスピアノマラソン	8月23日 24組、28人
	・音楽ワークショップ①CM制作会社	8月 2日 10人
	・音楽ワークショップ②和楽器音楽グループ	R8年3月14日 13人
	・施設マネジメント研修	9月25日 18人
	・バックステージツアー①お仕事体験	8月17日 44人
	・バックステージツアー②バックヤード見学	R8年1月4日 150人
	・ミルハスロビーコンサート	R8年1月4日 100人
	・障がい者向け公演鑑賞支援サービス	
	①障がい者対象体験会	9月23日 11人
	②レセプショニスト研修	12月 1日 14人
	③ボランティアスタッフ研修	12月14日 14人
	④公演鑑賞支援サービス	
	・「あきた吹奏楽の日～大いなる秋田定期公演～」	12月21日 6人
	・Kバレエ・オプト「踊る。遠野物語」	R8年1月12日 1人
	・東京芸術劇場制作舞台「飛び立つ前に」	R8年1月24日 3人 25日 5人

あきた芸術劇場 ミルハス	【公演・伝統芸能の映像資料等のアーカイブ】 ・公演などの資料保存 ・アーカイブ展示 【周辺施設と連携したにぎわい創出のための事業】 ・フリー・オープン・ディ 秋田市文化創造館、秋田市にぎわい交流館 AU との連携事業 ・輪投げチャレンジ 「広小路バザール」との連携事業 ・ランタンお絵描き大作戦 ・夏の小さな映画館 「千秋蓮まつり」との連携事業 ・ミュージックフェス ・けやはす演劇部公演 ・こどもプレイルーム 「県レクリエーション協会」との連携事業 ・ミルハス珈琲友活 あきた結婚支援センターとの連携事業 ・鉄道ジオラマ見学会 秋田鉄道趣味会との連携事業 【共催事業】 ・あきたドリームブラス	 通年 通年 5 月 6 日　4,038 人 7 月 13 日　367 人 8 月 3、10 日　100 人 8 月 16 日　50 人 9 月 21 日　251 人 9 月 21 日　188 人 R8 年 2 月 8 日　159 人 R8 年 2 月 15 日　60 人 R8 年 2 月 22 日 1,130 人 9 月 21 日　1,017 人

ピアノマラソン

あきた民謡フェス vol.3

5.収益事業

管理施設の特性を活かして持続的な運営を目指し、収益性の高い付加価値型スポーツ教室やイベントを開催しました。これにより、幅広い世代へのスポーツ参加を促進し、健康づくりの機会を創出しました。

実施施設	内容	開催時期（期間）及び参加者数（延べ人数）
県立体育館	【スポーツ教室事業】	
	・ゆっくりかんたんヨガ　30回	通年　160人
	・貯筋クラブ　22回	通年　436人
	・シニアからはじめるヒップホップ　36回	通年　252人
	・シニアボクシングエクササイズ&エアロ　36回	通年　296人
	・アクティブクラブ　キッズ　32回	通年　243人
	・アクティブクラブ　ジュニア　32回	通年　242人
	・ノルディックウォーキング　6回	4月～11月　63人
	【イベント事業】	
	・坐禅会　2回	6月・10月　38人
	【文化育成事業】	
	・陶芸教室　2回	8月3日　25人
	・フェイクスイーツ教室　3回	8月・12月　36人
県立武道館	【スポーツ教室事業】	
	・健康応援教室　36回	通年　1,728人
	【イベント事業】	
	・ベビーマッサージ教室&サイン教室(前期) 6回	6月～7月　156人
	・ベビーマッサージ教室&サイン教室(後期) 6回	9月～10月　108人
	・フラダンス教室(前期)　5回	6月～7月　16人
	・フラダンス教室(後期)　5回	9月～10月　中止
	・幼児教室(前期)　6回	6月～8月　中止
	・幼児教室(後期)　6回	9月～11月　28人
県立中央公園	【レクリエーション事業】	
	・ふれあい親子クラブ2025「夏休み思い出つくり隊」	8月2日　58人
	・ふれあい親子クラブ2025秋の謎解き大冒険	10月12日　雨天中止
	【スポーツ交流事業】	
	・第9回ＳＫＹ－Ｄリーグ交流会（小学生サッカー）	R8年 3月20日　10チーム

県立総合射撃場	【イベント事業】 ・家族対抗ビームライフル射撃大会 ・チーム対抗ビームライフル射撃大会	 5月18日　16人 7月21日　9人
県立向浜運動広場	【スポーツ教室事業】 ・向浜テニス教室　17回	 5月～10月　351人
県立総合プール (※振替日含む)	【スポーツ教室事業】 ・ベビースイミング　8回 ・キッズスイミング(水曜日)　30回 ・キッズスイミング(木曜日)　30回 ・ジュニアスイミング(水曜日)　30回 ・ジュニアスイミング(木曜日)　30回 ・レッドシャークス　30回 ・おとなのためのスイミング　30回 ・キッズサマースイミング　前期3回 ・キッズサマースイミング　後期3回 ・ジュニアサマースイミング　前期3回 ・ジュニアサマースイミング　後期3回 ・親子deレスキュー ・長崎宏子の「SWIM TO SMILE！」 ・ワンポイントレッスン　毎月1～2回 【イベント等】 ・県立総合プール施設探検ツアー	 7月～9月　372人 通年　749人 通年　582人 通年　1,379人 通年　1,408人 通年　349人 通年　668人 7月　56人 7月　58人 7月　89人 7月　92人 7月5日　22人 8月2日～3日 146人 通年　48人 R8年1月24日15人
県立スケート場 (※振替日含む)	【スポーツ教室事業】 ・スケート初心者教室　6回 ・キッズスケート教室　12回 ・ジュニアスケート教室　12回 ・ステップアップスケート教室　12回 ・放課後スケートクラブ　12回 ・冬休みスケート教室　6回 ・個人レッスン　7回 ・親子スケート教室　4回	 12月～R8年1月135人 11月～R8年2月117人 11月～R8年2月290人 11月～R8年2月68人 11月～R8年2月174人 12月～R8年1月157人 11月～R8年2月　8人 11月～R8年1月　41人

チーム対抗ビームライフル射撃大会

夏休み思い出つくり隊

ベビースイミング

アクティブクラブ　ジュニア

6. 人材育成事業

第 3 期経営計画の将来像「挑戦」「人財」「社会貢献」「協働」の実現に向け、第 1 期研修計画（R4～R6）の成果と課題を踏まえ、令和 7 年度から 3 年間の第 2 期研修計画を策定しました。組織の実行力強化を目指し、新規研修として、「クレーム対応・カスハラ対応研修」、「フィードバック面談・コーチング研修」を導入し社員の資質向上に努めました。

研修カテゴリー	研　　修　　名	対　　象　　者
育成研修 （指定研修）	無期転換社員研修	無期転換社員
	フィードバック面談・コーチング研修	主任以上
	自律的思考獲得研修	主任～課長補佐
	ＤＸ人材育成研修	選抜社員
選択研修 （自己啓発研修）	クレーム対応・カスタマーハラスメント対応研修	全社員
	普通・上級救命講習	全社員
業務関連研修		
その他研修		

7.連携・協働事業

(1) 施設連携事業

各事務所が連携し、多種多様なイベントや研修を企画・開催することで、公社の認知度向上、施設利用者の増加、そして施設の効果的な運営を推進しました。

また、次期指定管理期間からの向浜スポーツゾーン一体管理の方針を見据え、向浜スポーツゾーンと県立武道館において、連携体制の強化に努めました。

実 施 施 設	内　　容
県立総合プール、県立向浜運動広場 県立野球場、県立スケート場、県立総合射撃場	向浜こどもスタンプラリー（5 月 5 日） 623 人

(2) 企業・団体との連携・協働事業

企業、各種団体や地域団体へ魅力ある企画を提供することで、社会貢献と企業等のイメージアップを目指す企業等連携事業を実施しました。

実 施 施 設	内　　容
県立体育館、 企画事業部	【夏休み！キッズチャレンジスポーツ 2025】（7 月 27 日） 秋田ノーザンハピネッツ、秋田ノーザンブレッツ RFC　51 人（再掲）
向浜スポーツゾーン、 県立武道館、県立総合射撃場（出前講習）	【向浜こどもスタンプラリー】（5 月 5 日） 県レクリエーション協会、県弓道連盟、県ライフル射撃協会 623 人（再掲）
県立中央公園、 企画事業部	【～こころとからだをリフレッシュ～秋田県立中央公園に行ってみよう！】（7 月 31 日～8 月 26 日） 県立図書館
県立総合プール	【県立図書館連携事業】（6 月～R8 年 3 月） 県立図書館 【長崎宏子の SWIM TO SMILE！】（8 月 2、3 日） 秋田県、（有）ゲンキなアトリエ　146 人（再掲）
県立武道館	【第 17 回新春書初め席書大会】（R8 年 1 月 11 日） （株）秋田魁新報社、県書道連盟 【第 18 回秋田県武道まつり】（R8 年 1 月 12 日） 県内各武道（術）団体　820 人（再掲）

県立中央公園	【ふれあい親子クラブ 2026 中央公園冬まつり】（R8 年 1 月 18 日） 県レクリエーション協会、秋田東警察署、秋田南消防署雄和分署 自衛隊秋田地方協力本部　2,500 人（再掲） 【中央公園「ハルノ市」】（R8 年 3 月 14、15 日） 学校橋雑貨店　8,000 人 【第 9 回ＳＫＹ－Ｄリーグサッカー交流会】（R8 年 3 月 20 日） 県サッカー協会　10 チーム（再掲）
あきた芸術劇場 ミルハス	【フリー・オープン・ディ】（5 月 6 日） 秋田市文化創造館、秋田市にぎわい交流館ＡＵ　4,038 人（再掲） 【輪投げチャレンジ】（7 月 13 日） 秋田商工会議所　367 人（再掲） 【ランタンお絵描き大作戦】（8 月 3、10 日） 秋田商工会議所　100 人（再掲） 【夏の小さな映画館】（8 月 16 日） 秋田商工会議所　50 人（再掲） 【ミルハスこどもプレイルーム】（R8 年 2 月 8 日） 県レクリエーション協会　159 人（再掲） 【ミルハス珈琲友活】（R8 年 2 月 15 日） あきた結婚支援センター　60 人（再掲） 【鉄道ジオラマ見学会】（R8 年 2 月 22 日） 秋田鉄道趣味会　1,130 人（再掲）

8. 社会貢献事業

公社では、自主事業や施設利用の中で環境保全活動や地域清掃活動、地域行事への参加などの社会貢献に取り組みました。

実　施　施　設	内　　容
県環境保全センター	【第 22 回あきたエコフェス】10 月 12 日、13 日 あきたエコフェス実行委員会主催で、秋田駅前アゴラ広場・大屋根通りなどを会場に開催し、48 企業・団体が参加し 2 日間で 24,000 人が来場した。県環境保全センターや公社の活動を紹介するパネル展示を行い、来場者向けに展示内容に関するクイズを実施、施設や環境保全活動等への理解を深める機会を提供した。 【施設へのアクセス道路・古種沢川のクリーンアップ】 アクセス道路である市道のクリーンアップを 4 月～10 月に計 8 回、処理水を放流する古種沢川の清掃を 6 月に実施した。

向浜スポーツゾーン	【向浜スポーツゾーン地区クリーンアップ】4 月 15 日、7 月 16 日 周辺地域の環境美化の一環として、年 2 回実施した。
県立武道館	【武道体験会】8 月 17 日 7 武道（剣道、柔道、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道、武術太極拳）の体験会を大道場で実施し、武道の普及振興に努めた。
県立体育館	【ニュースポーツ用具貸出事業】 地域住民の健康増進と交流促進や､ニュースポーツの普及活動を通じて生涯スポーツの振興を目的とした用具の貸出事業を実施し、32 団体が利用した。
県立中央公園	【雄和椿川地区熊対策協議会の活動】 ・既設緩衝地帯の維持管理作業　5 月～11 月 ・既設看板等の維持管理および更新　5 月～11 月 ・協議会会員による雑木林下草刈り作業　6 月 18 日 ・業者委託による整理伐・下草刈り作業　8 月 13 日 ・熊注意喚起用ティッシュペーパー、 爆竹、熊よけアラーム配布　4 月、9 月、10 月、3 月 ・啓発活動 国際教養大学「熊対策啓発講座」　4 月 ふれあい親子クラブ 2026 中央公園冬まつり　R8 年 1 月 18 日

アクセス道路クリーンアップ

ニュースポーツ用具貸出事業

9. 施設開放事業

年齢や経験に関わらず、誰もが気軽に管理施設を訪れ、スポーツや文化活動を楽しんでいただけるよう、こどもの日やスポーツの日といった祝日、イベント開催時などに、次のとおり施設開放しました。

事　業　名	内　　容	開催時期（期間）及び参加者数（延べ人数）
無料開放事業	【祝日や記念日等の無料開放】 県立中央公園、県立総合射撃場、県立武道館、県立総合プール、県立向浜運動広場 ・こどもの日 ・向浜こどもスタンプラリー（再掲） ・県の記念日 ・スポーツの日 県立中央公園（フィールドアスレチック） ・あきた家族ふれあい サンサンデー（第3日曜日）　6回 【開場日・閉場日等に合わせた無料開放】 県立スケート場 ・オープンサービスデー ・クリスマスフェスティバル（再掲） ・ファイナルサービスデー	 5月 5日 2,693人 5月 5日 623人 8月29日 213人 10月13日 464人 6月～11月 309人 10月19日 258人 12月21日 919人 R8年 3月19日 682人
一般開放事業	【個人向け施設開放（有料）】 ・県立体育館　スポーツを楽しむ日 94日（200回） ・県立武道館　大道場一般開放 【団体向け施設開放（有料）】 ・県立野球場　県民開放	 通年 3,972人 通年 39人 6月・10月 490人
施設見学	【施設見学会】 あきた芸術劇場ミルハス ・バックステージツアー①（再掲） お仕事体験 ・バックステージツアー②（再掲） バックヤード見学	 ①8月17日 44人 ②R8年1月4日 150人

10. 広報事業

(1) 広報活動

スポーツレクリエーションや芸術文化の魅力を広く伝えるため、広報誌の発行に加え、ＳＮＳや報道機関などの媒体を活用した広報活動を展開しました。

広　報　活　動	内　　容
広報誌発行	公社管理施設の利用促進やスポーツ振興のため、広報誌「みんなのスポーツ・カルチャー」を年２回（春・夏号、秋・冬号　計 10,800 部）発行し、県内の小中学校や市町村などに配布した。
テレビ番組での情報提供	秋田拠点センターアルヴェ内スタジオで、平日に公開生放送されている秋田ケーブルテレビ（ＣＮＡ）の情報番組「し～なチャン」に公社社員が出演し、公社自主事業について広報した。 ※出演実績（ミルハス単独出演数含む） 令和７年度（4 月～R8 年 3 月）7 回
ウェブサイトの活用	公社公式ウェブサイトで、施設の予約状況（貸館空き情報）、主催事業のお知らせ、各施設へのアクセス等の情報発信を行った。さらに、令和４年５月から公社の公式インスタグラムの運用を開始し、主催事業の様子や各施設周辺の景観の紹介などを発信した。 【ウェブサイトへのアクセス実績　　299,496 件】 【インスタグラムへのアクセス実績　506,522 件】
秋田魁新報「週刊さきがけスポーツコラム」への寄稿	令和３年度から「週刊さきがけスポーツ」の「県内スポーツだより」に４月～令和８年３月の月１回、公社が管理運営しているスポーツ施設運営の苦労話や自主事業の話題などを寄稿した。

(2) パブリシティ事例

県政記者クラブや秋田市企画財政部広報広聴課（広報あきた）へ公社自主事業の広報を行いました。また、県内のメディアを社員が訪問し、担当者へ直接情報提供を行いました。

報道機関	掲載日	掲　載　内　容
秋田魁新報	4 月 23 日	グラウンドキーパー2 人　甲子園で研修
	7 月 21 日	水難事故から身を守ろう（親子 de レスキュー）
	9 月 25 日	鑑賞支援、利便性を確認 ミルハス　障害者対象に体験会
	10 月 16 日	憧れの「こまち」で快音　小中生 20 人超が打撃練習 （こまちスタジアムバッティングセンター）
朝日新聞	6 月 30 日	こまちスタジアムを神整備

NHK 秋田放送	5 月　2 日 12 月 19 日 R8 年 1 月 9 日	ニュースこまち　週末情報（向浜こどもスタンプラリー） 〃　（クリスマスフェスティバル） 〃　（第 18 回秋田県武道まつり）

11. その他関連事業

(1) 事務所チャレンジ支援事業

令和 6 年度より開始した事務所チャレンジ支援事業制度を継続して実施しました。

実施施設・部署	内　　容
向浜スポーツゾーン(県立総合プール)	トレーニングルーム整備事業

(2) 商品販売やサービス提供等の事業

管理施設において、利用者の利便性向上を図るため、商品販売及びサービス提供等を実施しました。

実施施設・部署	内　　容
運営本部事務局 企画事業部	公社が所有するポップコーン機の貸出
スポーツ・文化・公園施設	管理施設内での飲料水等自動販売機の設置
スポーツ施設	イベントにおけるにぎわい創出としての綿あめやポップコーンの販売活動
県立循環器・脳脊髄センター	洗濯機と乾燥機の設置
向浜スポーツゾーン	県立スケート場公社オフィシャルキャラクター「かまくまくん」のグッズ販売活動、着ぐるみの制作
県立スケート場	喫茶ホールの営業活動

かまくまくん(着ぐるみ)

かまくまくんグッズ

Ⅴ　各事務所のビジョン達成状況

第 3 期計画で各事務所が策定した 5 年間のビジョンについて、令和 7 年度の達成状況は以下のとおりです。

環境保全事務所		
ビジョンあるいは活動方針	数値目標(令和 7 年度)	実績・進捗状況
【ＳＤＧｓの取組】 ビオトープの水質基準の徹底と施設見学者への活用。	①水質基準　令和 7 年度 ＢＯＤ：<10mg/l ＣＯＤ：<20mg/l ②施設見学案内件数 令和 7 年度　　5 件	①毎月ビオトープの水質検査を実施した。 ＢＯＤ：<0.5～2.4mg/l ＣＯＤ： 0.8～3.0mg/l ②施設見学案内件数 見学 6 件：28 人
あきた芸術劇場事務所		
ビジョンあるいは活動方針	数値目標(令和 7 年度)	実績・進捗状況
【人材育成、施設の利用促進および賑わい創出】 年間利用者数 35 万人を確保するとともに、中心市街地の賑わいづくりに貢献する。	年間利用者数 令和 7 年度　　35 万人	年間利用者数は 366,941 人で目標 35 万人を 16,941 人上回った。 さらに一般来館者数は 602,857 人で開館以来初めて 60 万人を超えた。
県立体育館事務所		
ビジョンあるいは活動方針	数値目標(令和 7 年度)	実績・進捗状況
【施設の利用促進】 コロナ禍・工事による長期休館前の利用者人数を上回ることができている。	令和 7 年度チラシ配布目標 ・配布地域の拡大 ・配布回数：年 2 回	当初、配布地域の拡大を考えていたが、かねてより秋田市だけでなく潟上地域にも配布していたため、配布エリアは従来通りとした。それに代えて、これまで 1 箇所あたりを一律 1 枚としていた配布枚数を見直し、各学校（小中高）へ 5 枚とした。 配布回数について、令和 6 年度は 1 回（12 月）だったところ、令和 7 年度は冬季間の需要が期待できる 12 月と、新年度の新規利用を見込んだ 3 月の 2 回とした。

武道館事務所		
ビジョンあるいは活動方針	数値目標(令和７年度)	実績・進捗状況
【施設間連携による管理体制の強化】 次期指定管理者募集においては、武道館と向浜スポーツゾーンが一体化された募集、また、利用料金併用制の導入となることから、管理体制も含めた対応を検討する。	月２回以上の打ち合わせを実施。	月４回（週１回）以上実施。 （シフト勤務の関係により打ち合わせは、対面のほか電話やメール等も活用した。）
【予約システムによる業務効率化】 ①予約システムによる受付業務の効率化と利用者の利便性の向上を図る。 ②予約システムの機能の理解を深め、有効な活用を図ることで、業務の効率化と業務量の減少に努める。	①予約システムの利用者登録 令和７年度の目標　48件 ②予約システムを活用することで、従前作成していた行事予定表の作成及びウェブサイトへの公開作業に要する業務時間を最小化する。	①登録数：８件 なお、R8.3.31までの登録総数は54件。 ②システムの行事予定表をウェブサイトに公開することで、この業務自体が削減できた。

中央公園事務所		
ビジョンあるいは活動方針	数値目標(令和７年度)	実績・進捗状況
【施設の魅力アップと利便性の向上】 次期指定管理業務を引き続き担い、利用者や社会のニーズを把握しながら、施設の魅力アップと利便性の向上を図り、新たな利用層の開拓や平日利用の向上につなげることなどにより、人口減少下にあっても、利用者の増加と収益の確保が図られている。	①関係機関等との連携による取組件数 令和７年度　５件	①関係機関等との連携による取組件数 令和７年度　５件 ・各競技団体や近隣施設からの意見を聴取するための運営協議会の開催や、競技会実施時の協力、中央公園自主事業開催に係る協力要請など、協働による取り組みを推進した。

	②予約システムの導入 令和７年度　キャンプ場 ４月	②予約システムの導入 令和７年度　キャンプ場 ・全国のキャンプ場予約サイトの「なっぷ」による予約を令和７年７月より開始した。
【新規自主事業の企画】 　新たな自主事業を立ち上げることにより、施設の魅力発信と地域の賑わい創出が図られるとともに、施設の活動が親子のふれあい交流の促進などの社会貢献活動として展開されている。	新規自主事業の立ち上げ件数 令和７年度　１件	新規自主事業の立ち上げ件数 令和７年度　１件 ・県民交流の場として、新たに無料で利用できるドッグランを設置し新規利用者の誘引を試みた結果、７月から11月までの期間中延べ千人を超える愛犬家の利用に繋がった。
【地域との連携による安全･安心な管理運営】 　地区の各機関による雄和椿川地区熊対策協議会や関係機関との連携・協働により、安全・安心な管理運営がなされている。	地域との協働による熊対策取組件数 令和７年度　３件	地域との協働による熊対策取組件数 令和７年度　４件 ・雄和椿川地区熊対策協議会の活動により熊出没防止等の対策及び周知活動を実施した。
向浜スポーツゾーン総合事務所		
ビジョンあるいは活動方針	数値目標(令和７年度)	実績・進捗状況
【委託事業の直営化】 　県立野球場で業者委託している芝管理業務の直営化を拡大し、経費削減に努める。また、他球場の芝管理の状況や業務について知見を深めるために施設視察を行う。	①委託費用 令和７年度 4,300 千円 ②令和７年度　はるか夢球場（青森市）視察予定	①委託費用 令和７年度 2,670 千円 ②はるか夢球場（弘前市） （R7.5.29～30　視察７人）

【必要資格保有者の確保と計画的な資格取得】 　各施設運営管理に有益な資格であることから、積極的に資格を取得さ、有資格者の維持と個々のスキルアップを図る。	＜資格者数＞ ①水泳指導員５人を維持 ②プール衛生管理者３人を維持 ③日赤救助員３人を維持 ④芝草管理技術者３人を維持 ⑤緑の安全管理士３人を維持 ※第３期計画より一部変更あり	 ①水泳指導員６人（R7：1 人採用） ②プール衛生管理者４人 ③日赤救助員６人 ④芝草管理技術者５人 （R7：新規取得２人） ⑤緑の安全管理士４人
総合射撃場事務所		
ビジョンあるいは活動方針	数値目標(令和７年度)	実績・進捗状況
【ビームライフル射撃の利用者拡大】 　企業（職場）及び地域での射撃チーム作り、あるいは学校単位による団体利用の促進などにより利用者数の安定、定着が図られている状態を目指す。	①学校行事組入校 　令和７年度　３ 校 ②職場チーム 　令和７年度　３チーム	①学校行事組入校 　　０校 ②職場チーム 　　０チーム
循環器・脳脊髄センター事務所		
ビジョンあるいは活動方針	数値目標(令和７年度)	実績・進捗状況
【データベースのさらなる活用】 　施設管理業務のデータベース化が一層促進されている。	データベース活用 施設管理データ保存に関して『令和３年度～令和６年分』を入力する。	入力を完了。 引き続き令和７年度以降も入力を継続するとともに、「活用」へ発展させている。